

シイタケの菌打ち体験

1月18日に北郷小学校でシイタケの菌打ち体験が行われ、全校生徒87人が参加しました。

シイタケ農家の松田由美津さん（大野市）の指導で、ナラの原木に穴をあけ、その穴にシイタケ菌が付着した種ゴマと呼ばれるペレット状の木を木槌で打ち込む作業を行いました。

近藤亜花莉さん（4年）は「木に打ち込むところがおもしろかった。またやってみたい。」と話していました。このシイタケは今年の秋から採れはじめ、来年の秋にピークを迎えるそうです。



熱心に説明を聞く児童たち

まゆ玉いっぱい飾り付け

1月15日の小正月に、ケイター保育園の5歳の園児たち15人がゆめおーれ勝山の多目的ホールでまゆ玉飾りを作り、ケヤキの木の枝に飾り付けを行いました。

まゆ玉飾りは、かつて養蚕農家で蚕の豊産と農作物の豊作を願い、小正月に飾られたものです。

園児たちはピンクや黄色、青、緑のまゆ玉や、小判、宝船などカラフルな飾りを枝に取り付け、「とってもきれいにできました。」と喜んでいました。



きれいに飾り付け

卒園記念にコースター作り ～上野保育園～

2月5日に上野保育園の3月卒園予定の園児15人がゆめおーれ勝山に来館し、卒園記念のオリジナルコースターを手織り機で作りました。

ゆめおーれ館員の指導を受け、約1時間でみんな思い思いのかわいいコースターを作り上げました。

上野保育園以外にも、市内4保育園が卒園記念のコースター作りを予定しています。

希望されるかたはゆめおーれ勝山までどうぞ。

☎87-1200



がんばって織ってます！

おいしいよ！ ～チャマゴン鍋講習会～

2月7日に、チャマゴン鍋の講習会が、教育会館で行われました。昨年の高校生食育王大会で優秀賞になった勝山南高校チームのオリジナル鍋を、勝山の冬の定番料理にしようと、まちづくりネットワーク創世が開催したものです。

親子連れ20人が挑戦し、笠松青夏ちゃん（5歳）・時羽（4歳）ちゃん姉妹は「肉団子がとっても美味しかった。」と笑顔でお鍋をつついていました。



（写真左）里芋をつぶします
（写真上）仕上げにコーンを入れます

「奥越の医療を考えるフォーラムin勝山」開催される

1月24日に福祉健康センターすこやかで「奥越の医療を考えるフォーラムin勝山」が開催されました。

これは、存続の方向にある福井社会保険病院の今後の役割や、地域医療のあり方を考えるため、勝山、大野両市と県、市民、地元医師会、福井社会保険病院、福井大学附属病院の関係者で構成する奥越地域総合医療機能研究会が主催したものです。

はじめに、同研究会会長の寺澤秀一福井大学附属病院副院長が「上手な医者のかかり方」について講演をされました。かかりつけ医を持つことで、体を全て把握している医者が



パネルディスカッションの様子



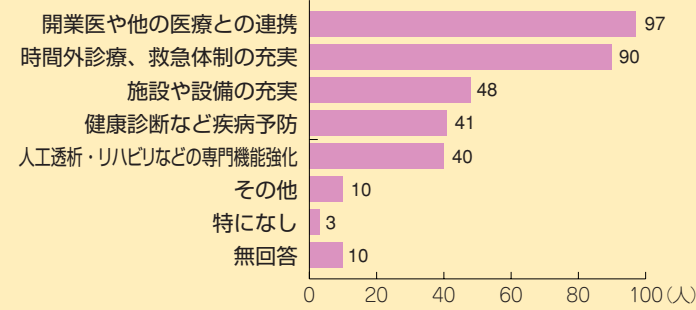
「かかりつけ医を持つことが大事」
講演する寺澤秀一氏

いることになり、薬の飲み合わせの調整や将来在宅で医療が必要になった時に診てもらえることになりました。また、素人判断でなくかかりつけ医の判断が必要な時に大きな病院にかかることで、医療費の節約や、適切な医療を受けられることにつながるなど、患者・医療双方にメリットがあることを説明しました。

その後、「奥越の医療を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われ、福井社会保険病院の現状やこれまでの経緯が説明され、病院と診療所（かかりつけ医）の連携など、奥越の医療について「地域全体で考えていく必要がある」という討論がされました。

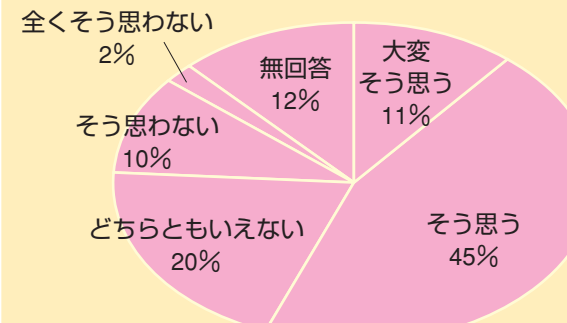
来場者アンケート結果より

奥越医療への要望



病診連携や時間外・緊急医療体制への充実を求める声が多い

医療のかかり方を見直したいと思いますか



講演を聞き、医者のかかり方を見直す必要性を感じた人が多い

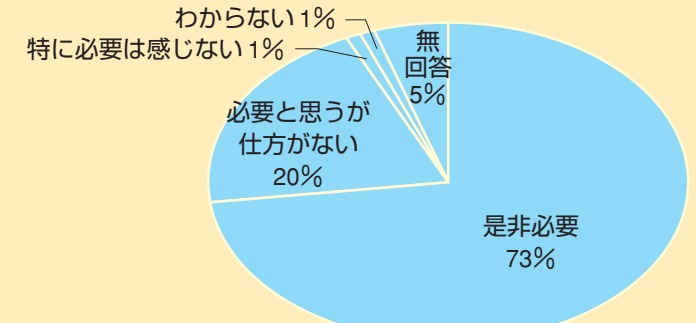
近くに「かかりつけ医」を持ちましょう

- ①軽い症状の時、いつでも受診できる。
- ②なんでも相談できる。
- ③必要な時に病院へ紹介してもらえる。
- ④病院で落ち着いたら戻ってこられる。
- ⑤薬の飲み合わせで嫌なことが防げる。
- ⑥過去のことを全て把握してもらえる。
- ⑦超高齢になって、在宅医療になった時もお願ひできる。

<寺澤先生資料より抜粋>



奥越で出産できる医療機関の必要性について



奥越で出産できる医療機関を強く望む声が多い